【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公開番号】特開2000-309656(P2000-309656A)
【公開日】平成12年11月7日(2000.11.7)
【出願番号】特願平11-119691
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　7/00　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/317　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　5/18　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　27/08　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　33/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　7/00　３０３
Ａ２３Ｌ　1/317　Ａ
Ｃ０８Ｊ　5/18　ＣＥＵ
Ｃ０８Ｌ　27/08
Ｃ０８Ｌ　27/08
Ｃ０８Ｌ　33:00

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月7日(2006.3.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
【実施例１】
加工助剤を含有する塩化ビニリデン／塩化ビニル共重合体［表１記号（Ａ）］樹脂に、カルボキシル基を含有しないアクリル系樹脂としてメタクリル酸樹脂としてメタクリル酸メチル／アクリル酸ブチル／スチレン共重合体［表１記号（C_1）］を０．５重量％含有した組成物をリボンブレンダーで混合調製した。次いで、該組成物を押出機（口径４０ｍｍ、Ｌ／Ｄ＝１８）の円形ダイ（直径２７ｍｍ、スリット１．１ｍｍ）から押出量１５ｋｇ／ｈｒ、押出樹脂温度１８５℃の条件で溶融押出して得られた厚さ約０．３ｍｍの管状物を１０℃の第１浴槽に通した後、５０℃の第２浴槽に通し、２組のピンチローラー間に空気を入れて約３×６倍のインフレーション延伸成形して約４０μｍ厚のダブルフィルムを得、該ダブルフィルムを延伸完了から巻き取り工程の間に設けたコロナ放電処理機（日本スタテック製ＧＴ１４０：金属ロール被覆ラバー厚み約３ｍｍ、電極－金属ロールの間隙約２ｍｍ固定）により単位表面積当たり１０Ｗ・分／m^2でコロナ放電処理し、巻き取った後、巻き取り完了から室温（２３℃）雰囲気中７日間保管し、フィルムを得た（実験Ｎｏ．１）。得られたフィルムの擬似肉付着量、肉密着性、高周波シール包装体のレトルト適性を上記方法で評価した。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】

【実施例２】

上記カルボキシル基を含有しないアクリル系樹脂にメタクリル酸メチル／メタクリル酸ブチル／アクリル酸ブチル共重合体［表１記号（C_2）］を用い、（Ａ）／（C_2）の混合重量比を９９．５／０．５、９９．０／１．０、上記単位表面積当たりのコロナ放電処理［単位：Ｗ・分／m^2］を１０、１５に変えたことの他は実験Ｎｏ．１と同様に実験を繰り返し、これらをそれぞれ実験Ｎｏ．３６～３９とした。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】

【比較例３】

上記カルボキシル基を含有しないアクリル系樹脂の代わりにカルボキシル基を含有するアクリル系樹脂としてメタクリル酸ブチル／メタクリル酸メチル／アクリル酸共重合体［表１記号（B_1）］を用い、（Ａ）／（B_1）の混合重量比を９９．８／０．２、９９．５／０．５、９９．０／１．０、上記単位表面積当たりのコロナ放電処理［単位：Ｗ・分／m^2］を０（未処理）、５、１０、１５、２０、２５に変えたことの他は実験Ｎｏ．１と同様に実験を繰り返し、これらをそれぞれ実験Ｎｏ．４８～６５とした。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】

【比較例４】

上記カルボキシル基を含有しないアクリル系樹脂の代わりに共重合ポリエステル樹脂としてテレフタル酸／イソフタル酸／アジピン酸／１，４－ブタンジオール共重合体［表１記号（B_2）］を用い、（Ａ）／（B_2）の混合重量比を９９．８／０．２、９９．５／０．５、９９．０／１．０、上記単位表面積当たりのコロナ放電処理［単位：Ｗ・分・m^2］を０（未処理）、５、１０、１５、２０、２５に変えたことの他は実験Ｎｏ．１と同様に実験を繰り返し、これらをそれぞれ実験Ｎｏ．６６～７７とした。